

5歳児 G 児 事例⑦

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
旭 さくら	女		1歳児：◇◇	令和3年度 ・眠りが浅い。 令和4年度 ・ままごとコーナーでは、機嫌よく過ごす。 令和5年度 ・身の回りのことには、集中しにくい。 令和6年度 ・ADHD(注意欠如・多動症)傾向 ・語彙は豊富。 令和7年度 ・ままごと遊びが好きで、イメージ豊かに集中して遊ぶ。 ・他の活動では、不注意傾向が見られる。	身体障害者手帳 (手帳 級) 療育手帳 A・B1・B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日	2歳児：○○・◇◇		
		R3.4.1	3歳児：○○・△△ 4歳児：△△・□□ 5歳児：●●・□□		

医療・相談機関	関係機関からの支援や情報
---------	--------------

令和3年度 ・〇区保健福祉センター 令和5年度 ・〇区保健福祉センター(〇医師)(◇心理職) 06-6××-×××× 令和6年度 ・〇区保健福祉センター(●医師)(◇心理職)	令和3年度 ・令和3年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：特になし 令和5年度 ・令和5年〇月〇日 3歳児健康診査：社会性における問診票の記載及び診察時の所見により、発達相談(心理)につながる。以降、心理職によるフォローあり。 令和6年度 ・令和6年〇月〇日 4・5歳児発達相談：ADHD傾向との所見。
---	--

保護者の願い	支援の目標・内容
--------	----------

令和6年度 ・言葉で伝えることが増えてほしい。 令和7年度 ・友達と仲良くしてほしい。 ・自分の気持ちを伝えてほしい。	令和6年度 ・自分の思いを言葉で表現できるように、気持ちを受け止めながら、適切な言葉を知らせていく。 令和7年度 ・気の合う友達ができ、一緒に活動する楽しさが味わえるように、保育者も一緒に遊んだり仲立ちをしたりして、遊びが広がっていく機会を体験させていく。 ・言葉で自分の思いを伝えることができるように、視覚支援も活用しながら、言おうとしていることや感情を汲み取り理解する。
---	---

この計画内容を確認しました。	令和 年 月 日	保護者名
----------------	----------	------

(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。 令和 年 月 日 保護者名

児童名 旭 さくら		家庭の様子：着脱は、「自分で!」と言って手伝われるのを嫌がる。家でもままごと遊びをしていることが多く、自分の世界に浸って、赤ちゃん人形のお世話をしている。				園長	担任(作成者)
クラス年齢 4歳児・5歳児							
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・1年かけて、登園・降園準備は自分でできるようになっている。 ・着脱時は、落ち着かないことがあり、スムーズにいかないことがある。友達の様子が気になり、友達が片付けていない衣類を「(これ)だれの?」と大きな声で言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を見て着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに着脱ができるように、めくり式の手順表を準備する。 ・自分でしようとする気持ちを大切にしながら、タイミングの良い声かけと、褒めることを心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表は喜んで見ているが、周囲にも見せて集中しない。 ・めくることに気がとられ、着替えることへの意識が途切れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を見るが、着替えることに対する困りは解消されていない。次月は、物的環境について、更なる工夫を考える。 		
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ままごと遊びが好きで、室内遊びのときは、ほとんどままごとコーナーで遊んでいる。 ・赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服など、決まって使いたい物があり、友達が使っていると無理矢理に取ってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ままごとコーナーにある玩具は、友達と一緒に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で譲ったり交代したりすることができるように、保育者と一緒に遊びながら、友達と遊ぶ楽しさを経験する中で伝えていく。 ・友達と分け合ったり一緒に使ったりすることができたときには、認める言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服の他、哺乳瓶やベビーカー等も自分の手元にないと落ち着かず遊べない。 ・一人でお世話遊びをしていることが多く、保育者が一緒に遊びにかかわると、少しは関心を向けることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ままごと遊びが好きなのに、友達と玩具と一緒に使うことをねらいにしたことで、遊びに集中できなくなってしまう。 ・好きな遊びをじっくりと楽しむことができるような、支援と手立てについて、担任間で話し合う。 		
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日		保護者名			

児童名 旭 さくら		家庭の様子：赤ちゃん人形の洋服を祖母に買ってもらい喜んでいる。繰り返し、小さな服を着替えさせることで、手先、指先が器用になったとのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 5 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 手順表は喜んで見ているが、周囲にも見せて集中できず、着替えが進まない。 また、めくることに気がとられ、着替えることへの意識が途切れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を見て着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して着脱ができるように、パーティションも準備して集中できる環境を整えらるとともに、パーティション内に、上から順に進んでいく縦型の手順表を貼る。 ままごと遊びのお世話遊びが好きな姿から、手順表の写真を赤ちゃん人形にして、手順通りに着替えを進めていくと、赤ちゃん人形の着替えが完成する、という手順表を作成する。 着脱への意欲がもてるように、「〇ちゃんと赤ちゃんのお着替え、一緒だね。」と声をかけながら、健康な生活を送るために必要な生活習慣の1つとして定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めはパーティションを気にしていたが、すぐに慣れ、パーティションで困ると着替える時間だと分かっている。 新しくなった手順表を見て、「なにこれ〜」と初めは言っていたが、自分の着替えが進むと赤ちゃん人形の着替えも進んでいくことが分かり、喜んで着替えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいは達成した。 集中しにくい、という特性から、パーティションは有効であった。 好きな遊びから支援を考えることで、生活面での困りを減らすことができた。 今後も特性を考慮しつつ、健康な生活に必要な、他の基本的な生活習慣についても手立てを考えていくが、大きな困りでなければ、ねらいには置かない。 	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びでは、赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服の他、哺乳瓶やベビーカー等も自分の手元にないと落ち着かず遊べない。 一人でお世話遊びをしていることが多く、保育者が一緒に遊びに加わると、少しは関心を向けることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びで、保育者や友達と少しずつやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びを十分に楽しめるように、赤ちゃんセット（1つの赤ちゃん人形に必要な玩具を集めたもの）を数セット準備することで、分け合ったり一緒に使ったりすることに、ねらいを置かない支援をする。 一人1セットであることはクラスルールとして全体に知らせるが、ままごとコーナーでの遊びについては、クラス全体で、子どもと一緒に考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特にお気に入りの赤ちゃんセットを使いたがるときもあるが、「ひとりぶん」になっていることを理解し、落ち着いて遊んでいる。 ままごとコーナーの遊び方をみんなで考えるときは何も言わなかった。家マークのボードに自分の顔マグネットを貼ることは分かった様子だが、まだ一人で遊ぶことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 譲り合うことを優先するのではなく、好きな遊びを十分に楽しめるような手立てを考え、環境整備をしたことで、遊びの保障ができた。 トラブルなく遊べるようになったことで、より、自分の世界に入っている様子。次月は、保育者を介して、少しずつ友達とのやり取りができるよう支援する。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

5歳児G児 事例⑦

(7 月 ~ 8 月)

(保育園)

児童名 旭 さくら		家庭の様子： 自分の世界に入り、一人で赤ちゃん人形の世話をしていたが、最近、母親に「ママは赤ちゃんのおかあさん。」、父親には「パパは、お医者さんやで。」と、役割を伝え、遊びに誘ってくることもある。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 5 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要はない。 着脱時に準備するパーティションを、初めは気にしていたがすぐに慣れ、パーティションで困ると着替える時間だと分かっている。 新しくなった着脱の手順表を見て、「なにこれ〜」と初めは言っていたが、自分の着替えが進むと赤ちゃん人形の着替えも進んでいくことが分かり、喜んで着替えるようになる。 					
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ママごと遊びでは、特にお気に入りの赤ちゃんセットを使いたがるときもあるが、「ひとりぶん」になっていることを理解し、落ち着いて遊んでいる。 ママごとコーナーの遊び方をみんなで考えるときは、何も言わなかった。 家マークのボードに自分の顔マグネットを貼ることが分かり、自分の顔を貼ってコーナーに行く。 まだ一人で遊ぶことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ママごと遊びで、保育者や友達と少しずつやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊んでいる様子を観察し、人形との間を感じている世界観を理解する。そのうえで、世界観を大切にしながら共感し、関わり方を工夫する。 友達と一緒に遊ぶ喜びや楽しさを感じられるように、保育者を介して対象児の遊びと他児の遊びをつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が、遊びの中に入った声かけたりすることは嫌がらず、人形の様子や自分のイメージを伝える。 少しずつママごとコーナーで遊ぶ他児のことは見るようになる。 ママごとコーナーは5人まで、というルールになり、家マークに顔マグネットを貼ることができないときは、空くまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを共有、共感できるよう、遊んでいる様子やしていることを言葉にして伝えることで、保育者とのやり取りはできるようになる。 他児の様子やしていることについても言葉にすることで、興味を示すようになっている。また、コーナーに入れる人数は理解しており、空くまで待っている。次月は、友達とのやり取りへとつなげていけるよう、声のかけ方など、具体的な内容を担任間で共有する。 	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

5歳児G児 事例⑦

(9 月 ~ 10 月)

(保育園)

児童名 旭 さくら		家庭の様子： 両親を交えてのごっこ遊びを楽しみ、一人のときよりもさらにイメージを膨らませているとのこと。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 5 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> • 支援の必要はない。 • 保育者が、ままごと遊びの中に入ったり声をかけたりすることは嫌がらず、人形の様子や自分のイメージを、笑顔で伝える。 • 少しずつ、ままごとコーナーで遊ぶ他児のことを、言葉は発しないうが笑顔で見えるようになる。 • ままごとコーナーは5人まで、というルールになり、家マークに顔マグネットを貼ることができないときは、他の遊びをせずに、ままごとコーナーのそばで、友達の様子を見ながら空くまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保育者や友達とやり取りしながら、ままごと遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達と同じ遊びをする楽しさや心地よさを味わえるように、他児が遊んでいる様子やしていることを言葉で伝えたり、保育者が橋渡しをしたりすることで、友達との関係をつなげていく。 • 友達と楽しさや面白さを共有し、共通のイメージをもったり、自分の役割が分かり楽しんだりできるように、その場の遊びに応じた言葉のかけ方などの具体的な内容を担任間で共有する。 			
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

5歳児 G 児 事例⑦ ポイント挿入

5歳児G児 事例⑦ポイント挿入

個別指導計画

(3 月 ~ 4 月)

進級しても支援が継続しなくなっていくことを目指すために、可能であれば「3月~4月」として、旧担任が作成できると望ましい。もち上がりであれば引き続き作成でき、担任が交代するのであれば、引継ぎの為のツールとしても活用したうえで、新担任が続けて作成していくことができる。

家庭での姿と施設での姿が共通していることを認識しておくことは、支援内容を考えるうえで大切である。

家庭の様子：着脱は、「自分で!」と言って手伝われるのを嫌がる。家でもままごと遊びをしていることが多く、自分の世界に浸って、赤ちゃん人形のお世話をしている。

園長 担任(作成者)

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。

「生活」面での姿は、支援をするうえで大切な情報である。家庭と施設では、姿に違いがあることを把握しておくことで、子ども理解につながる。

項目	児童の姿	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<ul style="list-style-type: none"> 1年かけて、登園・降園準備は自分でできるようになっている。 着脱時は、<u>落ち着かないことがある</u>、スムーズにいかないことがある。友達の様子が気になり、友達が片付けていない衣類を「(これ)だれの?」と大きな声で言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズに着脱ができるように、めくり式の手順表を準備する。 自分でしようとする気持ちを大切にしながら、タイミングの良い声かけと、褒めることを心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表は喜んで見ているが、周囲にも見せて集中しない。 めくることに気がとられ、着替えることへの意識が途切れることがある。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びが好きで、<u>室内遊びのときは、ほとんどままごとコーナーで遊んでいる。</u> 赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服など、決まって使いたい物があり、友達が使っていると無理矢理に取ってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で譲ったり交代し、友だちと遊ぶ楽しさを経験する中で伝えていく。 友達と分け合ったり一緒に使ったりすることができたときには、認める言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を見るが、着替えることに対する困りは解消されていない。次月は、物的環境について、更なる工夫を考える。

視覚支援のメリットとして、**忘れの予防**がある。対象児の特性を踏まえると効果が期待できる。

自分の手元にあると、**落ち着いて遊べる**、と肯定的に記載するほうが望ましい。

評価したうえで、次月に向けてどうしていくのか、ということに記載しておく。

ままごとコーナーにある玩具は、**友達と一緒に使う。**

就学前教育カリキュラム P68 「4歳児ラーニングデザイン」参照

自分の中にある、イメージ通りに遊びたい

5歳児に進級する時期ではあるが、この時点では「譲り合う」ことに視点を置くことは難しい。それよりも、好きな遊びをじっくりと楽しむための手立てを考えることに気付けたことは、子ども理解の成果といえる。

集中して取り組めない

着脱の順番が分からない

たくさんのことをすることが難しい

「なぜ?」を考える。

友達を困らせようと思っている

一人だけで使いたい

この計画内容を確認しました。

令和 年 月 日

保護者名

前月からの
つながり

→

子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書くことが望ましいが、この計画ではプラスの姿が少ない。

家庭の様子：赤ちゃん人形の洋服を祖母に買ってもらい喜んでいる。繰り返し、小さな服を着替えさせることで、手先、指先が器用になったとのこと

家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。

ADHD傾向との所見が出ていることを踏まえ、集中しにくかったり、不注意の弱さが見られることを理解したうえで、環境を整えることや、得意(好き)なことを活用した手立てを考えることは、非常に重要である。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	園長	担任(作成者)
生活	<ul style="list-style-type: none"> 手順表は喜んで見ているが、周囲にも見せて集中できず、着替えが進まない。 また、めくることに気がとられ、着替えることへの意識が途切れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表を見て着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して着脱ができるように、パーティションも準備して集中できる環境を整えるとともに、パーティション内に、上から順に進んでいく縦型の手順表を貼る。 ままごと遊びのお世話遊びが好きな姿から、手順表の写真を赤ちゃん人形にして、手順通りに着替えを進めていくと、赤ちゃん人形の着替えが完成する、という手順表を作成する。 着脱への意欲がもてるように、「〇ちゃんと赤ちゃんのお着替え、一緒だね。」と声をかけながら、健康な生活を送るために必要な生活習慣の1つとして定着させ 	<ul style="list-style-type: none"> 初めはパーティションを気にしていたが、すぐに慣れ、パーティションで困ると着替える時間だと分かっている。 新しくなった手順表を見て、「なにこれ〜」と初めは言っていたが、すぐに慣れ、パーティションで困ると着替える時間だと分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいは達成した。 集中しにくい、という特性から、パーティションは有効であった。 好きな遊びから支援を考慮することで、生活面での困りを減らすことができた。 今後も特性を考慮しつつ、健康な生活に必要な、他の基本的な生活習慣についても手立てを考えていくが、大きな困りでなければ、ねらいには置かない。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びでは、赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服の他、哺乳瓶やベビーカー等も自分の手元ないと落ち着かず遊べない。 一人でお世話遊びをしていることが多く、保育者が一緒に遊びに加わると、少しは関心を向けることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ままごと遊びで、保育者や友達と少しずつやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前教育カリキュラム P69「5歳児カリキュラム」参照 必要な玩具を集めたものを数セット準備することで、分け合ったり一緒に使ったりすることに、ねらいを置かない支援をする。 一人1セットであることはクラスルールとして全体に知らせるが、ままごとコーナーでの遊び方については、クラス全体で、子どもと一緒に考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価したうえで、生活面については一旦、ねらいとしては置かないことを明記しておき、今後、新たな困りが見られたときには、支援内容を考えていけば良い。必ず、ねらいを置かないといけないわけではない、ということを理解しておく。 「ひとりさん」になっていることを理解し、落ち着いて遊んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 譲り合うことを優先するのではなく、好きな遊びを十分に楽しめるような手立てを考え、環境整備をしたことで、遊びの保障ができた。

前月の【具体的な状況】に記載したことを、翌月の【児童の姿】に記入する。

前月と「ねらい」は同じだが、前月の「評価・今後の課題」に記載したように、物的環境について工夫した内容になっている。このように、評価を踏まえて、次月の「具体的な支援・手立て」を考えることで、計画がつながりのあるものとなり、同じねらいであっても、今月は達成することが期待できる。

評価したうえで、生活面については一旦、ねらいとしては置かないことを明記しておき、今後、新たな困りが見られたときには、支援内容を考えていけば良い。必ず、ねらいを置かないといけないわけではない、ということを理解しておく。

ままごと遊びでは、赤ちゃん人形や赤ちゃんの布団、洋服の他、哺乳瓶やベビーカー等が自分の手元にあると落ち着いて遊べる。

「ねらい」を1, 2つに絞り、スモールステップで置くことで、次のサイクルまでに達成しやすくなり、保育者は支援の効果を実感し、対象児は困りが1つずつ軽減され自信をつけていく。

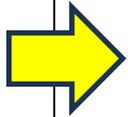
見えている姿から、次の支援の方向性を考え、次月につなげていく。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価を書く。

「社会性」から「コミュニケーション」面の支援へ。

この計画内容を

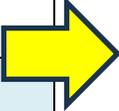
保護者名



児童名	旭 さくら	家庭の様子： 自分の世界に入り、1人で赤ちゃん人形の世話をしていたが、最近、 母親に「ママは赤ちゃんのおかあさん。」 、父親には「 パパは、お医者さんやで。」 と、役割を伝え、遊びに誘ってくることもある。	園長	担任(作成者)	
年齢	5 歳児	施設での支援として取り組もうとしていることが、先に家庭で見られていることを保護者と共有・共感することで、更なるステップにつながっていくことが期待できる。			
項目	児童の姿	ねらい	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要はない。 着脱時に準備するパーティションを、初めは気にしていたがすぐに慣れ、パーティションで困ると着替える時間だと分かっている。 新しくなった着脱の手順表を見て、「なにこれ～」と初めは言っていたが、自分の着替えが進むと赤ちゃん人形の着替えも進んでいくことが分かり、喜んで着替えるようになる。 	<p>基本的な生活習慣が身に付いているかどうかは、対象児の姿を知るうえで重要な内容となる。生活習慣が一定身に付き回りがいい場合でも、「生活」の項目をあげ『支援の必要はない』と記載しておくことで、保護者を含む、対象児と関わる全ての大人が共通認識できる。また、いずれ、困りが見えてくることもあるので、そのときには、ねらいにあげて支援する。</p>	<p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。</p>	
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ママごと遊びでは、特にお気に入りの赤ちゃんセットを使ったがるときもあるが、「ひとりぶん」になっていることを理解し、落ち着いて遊んでいる。 ママごとコーナーの遊び方をみんなで考えるときは、何も言わなかった。 家マークのボードに自分の顔マグネットを貼ることが分かり、自分の顔を貼ってコーナーに行く。 まだ1人で遊ぶことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ママごと遊びで、保育者や友達と少しずつやり取りする。 今月からは「生活」のねらいを置かないので、ねらいが1つになっても構わないが、5歳児の場合は、就学を見据えて意図的に「認識」に関する観察をすることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊んでいる様子を観察し、人形との間で感じている世界観を理解する。そのうえで、世界観を大切にしながら共感し、関わり方を工夫する。 友達と一緒に遊ぶ喜びや楽しさを感じられるように、保育者を介して対象児の遊びと他児の遊びをつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が、遊びの中に入った声かけたりすることは嫌がらず、人形の様子や自分のイメージを伝える。 少しずつママごとコーナーで遊ぶ他児の姿を見るようになる。 ママごとコーナーは5人まで、というルールになり、家マークに顔マグネットを貼ることができないときは、空くまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを共有、共感できるよう、遊んでいる様子やしていることを言葉にして伝えることで、保育者とのやり取りはできるようになる。 他児の様子やしていることについても言葉にすることで、興味を示すようになっている。また、コーナーに入れる人数は理解しており、空くまで待っている。次月はさらに、やり取りへとつなげていけるよう、声のかけ方など、具体的な内容を担任間で共有する。
この計画内容を確認しました。		前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。	就学前教育カリキュラム P68 「5歳児カリキュラム」参照	保護者名	

就学前教育カリキュラム P68 「5歳児カリキュラム」参照

児童名	旭 さくら	家庭の様子： <u>両親を交えてのごっこ遊びを楽しみ、一人のときよりもさらに、イメージを膨らませている</u> とのこと。		園長	担任(作成者)
前月からの つながり	5 歳児	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況
生活	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が、ままごと遊びの中に入ったり声をかけたりすることは嫌がらず、人形の様子や自分のイメージを、笑顔で伝える。 少しずつ、ままごとコーナーで遊ぶ他児のことを、言葉は発しないうが笑顔で見ようになる。 ままごとコーナーは5人まで、というルールになり、家マークに顔マグネットを貼ることができないときは、他の遊びをせずに、ままごとコーナーのそばで、友達の様子を見ながら空くまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達とやり取りしながら、ままごと遊びをする。 	<p>就学前教育カリキュラム P68 「5歳児カリキュラム」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と同じ遊びをする楽しさや心地よさを味わえるように、他児が遊んでいる様子やしていることを言葉で伝えたり、保育者が橋渡しをしたりすることで、友達との関係をつないでいく。 友達と楽しさや面白さを共有し、共通のイメージをもったり、自分の役割が分かり楽しんだりできるように、その場の遊びに応じた言葉のかけ方などの具体的な内容を担任間で共有する。 	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <p>新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が、ままごと遊びの中に入ったり声をかけたりすることは嫌がらず、人形の様子や自分のイメージを、笑顔で伝える。 少しずつ、ままごとコーナーで遊ぶ他児のことを、言葉は発しないうが笑顔で見ようになる。 ままごとコーナーは5人まで、というルールになり、家マークに顔マグネットを貼ることができないときは、他の遊びをせずに、ままごとコーナーのそばで、友達の様子を見ながら空くまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達とやり取りしながら、ままごと遊びをする。 	<p>一人よりも、相手がいることでさらに世界が広がり楽しくなることを、両親とのごっこ遊びで体感しているので、保育者が双方のイメージや思いをつなげることで、大好きな遊びを通じて、友達関係の広がりを支えていくことができる。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。</p> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性（ねらいとして置こうと考えること）について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日		保護者名	



前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。

前月からのつながりを意識して、記載も横のつながりを意識する。

一人よりも、相手がいることでさらに世界が広がり楽しくなることを、両親とのごっこ遊びで体感しているので、保育者が双方のイメージや思いをつなげることで、大好きな遊びを通じて、友達関係の広がりを支えていくことができる。

「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。

この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということ必ず記載する。

ねらいが達成できたときは、次の方向性（ねらいとして置こうと考えること）について記載しておくことで、計画がつながっていく。